

## 北関東信越ブロック会議（令和4年8月23日・群馬県：Gメッセ群馬）

参加者は約170名。大会テーマは「専修学校・各種学校における教育の質の向上とガバナンス改革」。全大会の開会式では、佐俣俊彦群馬県副会長の開会の言葉に続き、国歌斉唱後、幹事県として鈴木良幸群馬県会長、主催者として石川尚子栃木県理事長・北関東信越ブロック会長があいさつを述べた。その後来賓式辞として、赤池誠章参議院議員の国政報告、山本一太群馬県知事、富岡賢治高崎市長からのメッセージに続き、福田益和全専各連会長のあいさつが述べられた。最後に、来賓紹介、祝電が披露され、全体会を終了。

小憩後、研修会を開始。先ず基調講演として「デジタル化がもたらすもの」をテーマに福田尚久日本通信株式会社代表取締役社長・前橋工科大学理事長より講演が行われた。その後休憩を挟み、行政説明として、文部科学省専修学校教育振興室の中安史明室長が専修学校の振興施策として、令和4年度文科省専修学校関係予算、コロナウイルス感染症への対応、職業実践専門課程等を通じた質保証・向上、リカレント教育、修学支援新制度等について説明。続いて、全専各連活動報告として全専各連事務局が令和4年度事業計画について、計画立案方針、重点目標の内容とその対応状況、職業実践専門課程認定校への地方財政措置（特別交付税）の予算要望活動、学校法人ガバナンス改革（私立学校法の改正）、協力者会議、教育未来創造会議第一次提言、厚生労働省施策等の動向について説明。引き続き各県行政施策報告が行われた後、小倉基宏群馬県副会長より大会決議（案）が読み上げられ、全会一致で承認された。次年度開催県決定については報告後、次年度開催県である茨城県の八文字典昭会長が来年のブロック会議の開催についてあいさつを行った。

最後に、鈴木良幸群馬県会長より閉式の言葉が述べられ全日程を終了した。

なお、採択された大会宣言決議文は次のとおりである。

### 大会決議

新型コロナウイルス感染症が蔓延して3年、世界的流行による未曾有の経済停滞にさらされ、我が国においてはあらゆる分野でパンデミックに対する脆弱さが露呈し、感染拡大防止のために経済社会活動の抑制を余儀なくされました。

我々教育機関も例外なく影響を受けることとなり、保護者や私費留学生の著しい収入減少による学費納入の滞り、学校行事の中止、授業形態及びカリキュラムの見直し、学生管理、学生サービス等の在り方、教職員の勤務体系の見直し等々、この難局を乗り越えるため各校工夫を凝らし、情勢の変化に対応してまいりました。一方、それが故に今まで縁遠かった分野の企業や学校、また、地域の生活や教育、学習方法にもICTが浸透し、勤務形態や学習形態の変容とともに我々のライフスタイルまでもが多少なりとも変化することとなりました。今後ますますDX化が進み、新しい価値が創出されるものと期待されます。

我々職業教育機関である専修学校各種学校にとっても変革のチャンスと捉え、本大会のテーマである「専修学校・各種学校における教育の質の向上とガバナンス改革」への取り組み、リカレント教育の推進、職業実践専門課程のより一層の充実に向けて前進して行かねばなりません。また、若者の学び方の変化に対応できる高等専修学校への支援強化、専門学校留学

生が卒業後に安心して業界で活躍できる環境整備等、改革を進めるためには国、地方行政当局の理解と協力無くしては成しえませんが、

これら案件の実現のために下記事項を強く要望するとともに、各会員校は自らの課題に取り組み、高等教育機関として、また、職業教育機関としての社会的責任を果たすべく努力することをここに決議するものです。

#### 記

1. 地域に根差した職業教育機関である専修学校各種学校への公的助成の一層の拡充とともに、職業実践専門課程への地方財政措置(特別交付税)について各県に対し早期の「目に見える形」での対応を要望する。
2. 外国人留学生が専門学校卒業後、地域社会で貢献できるよう国に対し就労機会拡大のための制度改正を要望する。
3. 後期中等教育機関であり、高等学校の枠に収まらない多様な教育を行っている高等専修学校の役割は大きく、その教育振興に資するためにも高等学校との格差是正を要望する。
4. 大災害に見舞われた際に、罹災した専修学校各種学校に対し、一条校と同様の措置が講じられるよう「激甚法」の早期法改正を要望する。

以上決議する。

令和4年8月23日

全国専修学校各種学校総連合会  
第52回北関東信越ブロック大会